

令和8年度 第1回

鳥栖市文化財保護審議会

1. あいさつ

2. 議 題

- 1 令和7年度事業報告について …… 1
- 2 令和8年度事業計画について …… 10
- 3 新指定文化財候補について …… 11

日 時 令和8年7月1日(水)
午後1時30分～

場 所 鳥栖市役所 3階大会議室1

鳥 栖 市 教 育 委 員 会

鳥栖市文化財保護審議会委員名簿

任期 令和7年10月1日～令和9年9月30日

氏 名	所属・職名等
会長 藤瀬 禎博	鳥栖郷土研究会会長
副会長 金子 信二	佐賀県文化財保護審議会委員
宮島 敦子	佐賀大学文化教育学部名誉教授
吉田 洋一	久留米大学文学部教授
大森 洋子	久留米工業大学客員教授
石山 勲	元九州歴史資料館学芸課長 日本考古学会会員
重藤 輝行	佐賀大学芸術地域デザイン学部教授
黒田 達也	鳥栖市立鳥栖中学校教諭 佐賀県文化財パトロール員
中島 しょう子	基山の歴史と文化を語り継ぐ会 事務局 日本民俗学会会員

1 令和7年度事業報告について

(1)調査

- ①103 件の照会および発掘調査依頼が提出され、37 件の確認調査を実施した。[P8,9]
- ②令和6年度の文化財事業の概要を記した「鳥栖市文化財年報 2024 年度版」を刊行した。
- ③立石開拓古墳群(立石町)の発掘調査を実施した。現場作業は9月中旬で完了し、引き続き整理作業を行った。[P5,6]
- ④元古賀遺跡(古賀町)の本調査を実施した。[P7]
- ⑤文化資源充実事業について、江島町の公民館に保管されている木造舟や石碑、神社に関するものの調査を行った。また、旧家に伝わる江戸時代の文書群の提供を受け、現在調査中である。

(2)保護・管理

- ①指定文化財(国3件、県2件、市14件)等の管理を、所有者や地元団体に委託又は、補助を行い、保護に努めた。
- ②史跡等の管理として、赤坂古墳や剣塚古墳、田代太田古墳、安永田遺跡、勝尾城筑紫氏遺跡(勝尾城跡・筑紫氏館跡・葛籠城跡・惣構跡)などの樹木伐採、下草刈り、倒木の処理などを行った。
- ③装飾古墳の田代太田古墳とヒャーガンサン古墳で、目視による環境観察と温湿度の計測を行った。また、田代太田古墳の石室については、石室内に伸びる木の毛根などの除去を行った。
- ④文化財防災啓発の一環として、1月18日(日)に高田町老松神社で消防訓練を行った。
【写真 A】

(3)公開・活用

- ①鳥栖歴史文化交流展示室について、令和7年度は14,100人の来場があった。なお、令和6年5月の開設以来の累計来場者数は25,878人となった。また、オープン1周年記念イベントとして、8月23日(土)に市内の小学生を対象とした「ミニ銅鐸づくり」を開催し、8名の参加があった。【写真 B】
- ②サンメッセ鳥栖や鳥栖市立図書館において文化財展示を行った。詳細は2ページ掲載の表のとおり。
- ③268号機関車の一般公開を、九州鉄道OB会鳥栖支部と協働で3回行い、合計478名の見学があった。また、年1回の清掃作業は、ボランティアを募集し、市民と協働で行った。【写真 C】
- ④10月19日(日)に開催された長崎街道まつりと、3月7日(土)に開催された鳥栖北地区文化祭にあわせ、古野町文化財収蔵展示室を一般に公開し、延べ167名の来場があった。【写真 D】

- ⑤総合学習支援として市内3校(小学校3校)に出前授業を行った。【写真 E】
- ⑥町区と福祉団体の2団体に対し出前講座を行い、延べ50人の参加があった。
- ⑦市民一般を対象に、市誌編纂のために収集した古文書をテキストにした古文書を解説する講座21回を開講し、延べ366人の参加があった。
- ⑧鳥栖のまちづくりと歴史・文化講座「鳥栖の集落と交通」を全7回開講し、延べ213名の参加があった。また、中上級者向けの古文書を解説する講座「古文書講読会」、翻刻した古文書を読み解く「古文書を読む会」をそれぞれ22回開講し、いずれも延べ176人の参加があった。
- ⑨勝尾城筑紫氏遺跡見学会について、4月20日(日)に予定していた春の見学会は雨天により中止とした。秋の見学会は、11月30日(日)に勝尾城跡・筑紫氏館跡の見学を行い、43名の参加があった。【写真 F】
- ⑩勝尾城筑紫氏遺跡史跡指定20周年記念講演会『勝尾城筑紫氏遺跡と九州の戦国城郭』を1月18日(日)にサンメッセ鳥栖において開催し、102名の参加があった。講演会では、岡寺良氏(立命館大学文学部教授)による講演「勝尾城筑紫氏遺跡と九州の戦国城郭」と、市職員によるこれまでの発掘調査と保護・活用の報告を行った。【写真 G】
- ⑪勝尾城筑紫氏遺跡を核とする地域の歴史と文化財を活かしたまちづくりを市民と協働して目指す「ふるさと元気塾」を開講してボランティアガイドの育成を行い、延べ221人が参加した。
- ⑫葛籠城跡において、市民活動団体の九千部クラブと協働で「山城の森づくり体験」(孟宗竹の伐採・竹細工づくり等)を2回実施し、延べ26名の参加があった。また「森林保全作業の安全講習」(チェーンソーによる間伐実習)を2回実施し、延べ20名の参加があった。【写真 H】

	タイトル	期間・会場	内容	来場者数
1	企画展示「昔、戦争があった - 鳥栖空襲と人々の暮らし -」	8/1～8/24 サンメッセ鳥栖 1Fホール	鳥栖空襲を中心に当時の鳥栖について知ってもらうことを目的とした、写真・手紙・道具等などの展示。	950
2	企画展示「よみがえる戦国時代の山城と城下町跡」	1/16～2/1 サンメッセ鳥栖 1Fホール	勝尾城筑紫氏遺跡の紹介パネルと出土遺物の展示。	410
3	企画展示「鳥栖で散った猛将川上忠堅 - 440年前、戦国時代の鹿児島 VS. 鳥栖ホーム戦 -」	2/27～3/5 サンメッセ鳥栖 1Fホール	サガン鳥栖ホームゲームにあわせ、島津氏の勝尾城攻めについてのパネル・遺物展示。	410
4	常設展示「国史跡 勝尾城筑紫氏遺跡 - よみがえる戦国時代の山城と城下町跡 -」	通年 鳥栖市立図書館 2F展示コーナー	勝尾城筑紫氏遺跡の紹介パネルと出土遺物の展示	1700

(4) 勝尾城筑紫氏遺跡

- ①史跡の整備を進めるため、平成 24 年度に策定した史跡整備基本計画の改訂を行った。
- ②地権者と交渉を継続していた葛籠城跡地区の公有化予定地のうち、承諾を得た地権者 1 名の 7 筆、計 11,249 m²について公有化を行った。

(5) その他

8 月 7 日（木）・8 日（金）に第 53 回九州地区市町村文化財保存整備協議会総会をサンメッセ鳥栖において開催した。1 日目は、総会並びに岩井浩介氏（文化庁文化財調査官）による記念講演と市職員による調査と保護活用の事例報告を行った。また、記念公演として曾根崎の獅子舞に出演いただいた。2 日目は、ヒャーガンサン古墳と葛籠城跡の現地見学を行った。



写真 A：文化財防火訓練(高田町老松神社)



写真 B：ミニ銅鐸づくり



写真 C：268 号機関車清掃



写真 D：古野町文化財収蔵展示室の一般公開
(鳥栖北地区文化祭)



写真 E：出前授業(若葉小学校)



写真 F：勝尾城筑紫氏遺跡見学会(秋)



写真 G：勝尾城筑紫氏遺跡国史跡指定 20 周年
記念講演会



写真 H：県民参加の森林づくり事業

立石開拓古墳群(令和7年度調査区)

【所在地】立石町字吉原

【遺跡の時代】古墳時代

【種類】墳墓

【調査面積】約3,400 m²

【調査の期間】現場作業：令和7年4月1日～9月12日

整理作業：令和7年9月16日～令和8年3月25日

【調査主体】鳥栖市教育委員会

【調査原因】次期リサイクル施設整備

【調査の概要】

立石開拓古墳群は鳥栖市立石町字吉原に所在する。周辺では平成2年に、南に隣接する立石山田遺跡で20基の古墳を調査している。

令和7年度調査区では、6基の古墳を確認した。古墳はすべて横穴式石室を内部主体とし、南東方向に入口を設けている。造営時期は石室構造および出土遺物から7世紀頃と考えられる。最も残存状況が良好であった23号墳からは墳丘を取り囲む列石が確認された。本遺跡において、列石が墳丘のほぼ全周で確認された。当古墳群における外表構造を考察する上で貴重な成果である。

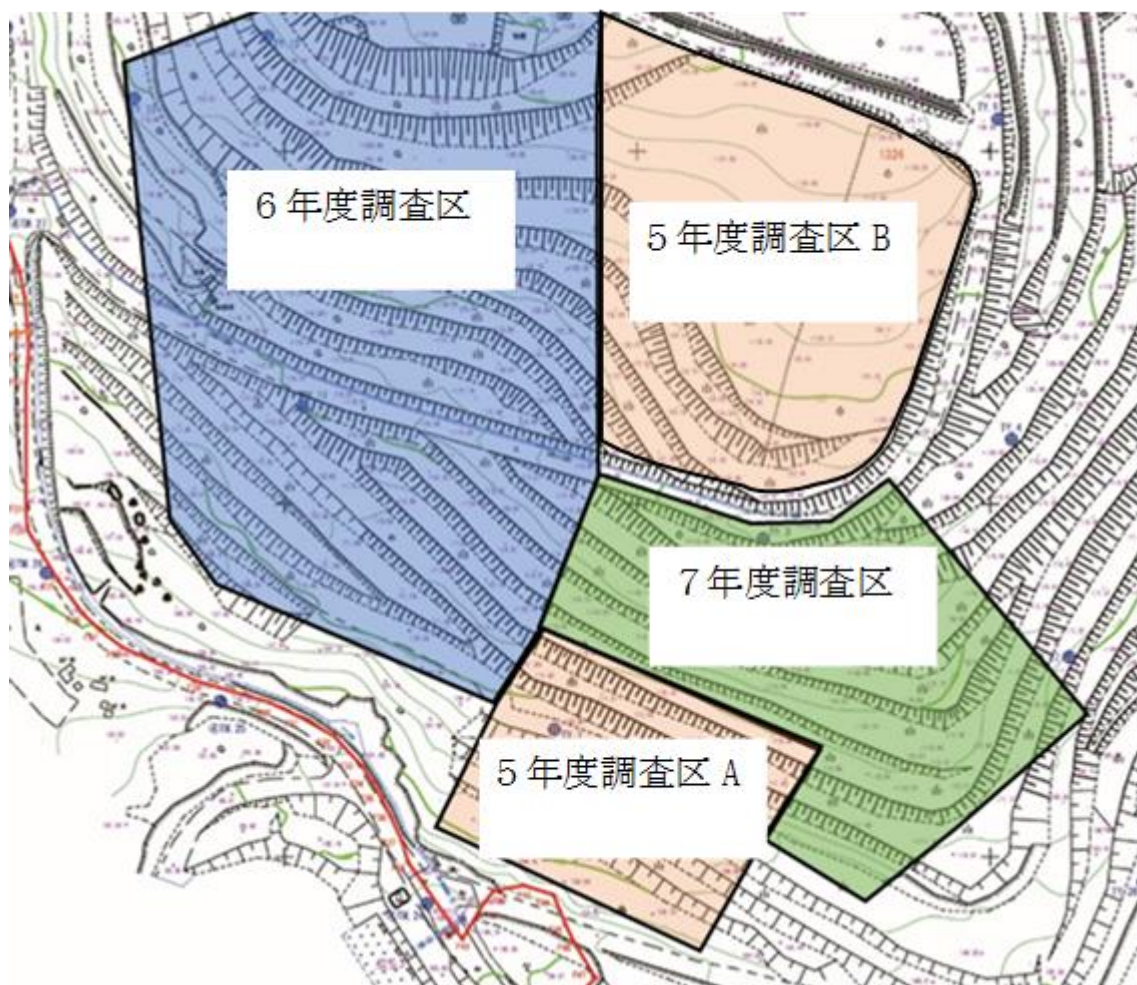


図1 調査区配置図



図2 調査対象地全景(南から)



図3 23号墳(頂上から)

元古賀遺跡

【所在地】古賀町 339-13, 339-14

【遺跡の時代】古墳時代

【種類】集落跡 【調査面積】約 50 m² (533.09 m²)

【調査の期間】令和 7 年 7 月 24 日～31 日

【事業原因】放課後児童保育施設

【調査主体】鳥栖市教育委員会

【調査の概要】

鳥栖市中心市街地から西北方向に位置する。県道 17 号線の東側に隣接する。標高は 41m 前後で、地形は南に向かい緩やかに下っている。周辺では弥生時代から奈良時代にかけての集落が確認されている。建築建物の影響する部分について発掘調査を実施した。

古墳時代の住居跡 1 棟が確認された。開発以前は水田、畑地として長く利用されており、住居跡は過去の掘削跡が見られるなど残りは良くない。

住居跡からは土師器、須恵器の小破片が出土した。また、住居跡周辺からは青磁の小片、瓦器碗(がきわん)、石斧も出土したが遺構に伴うものではない。

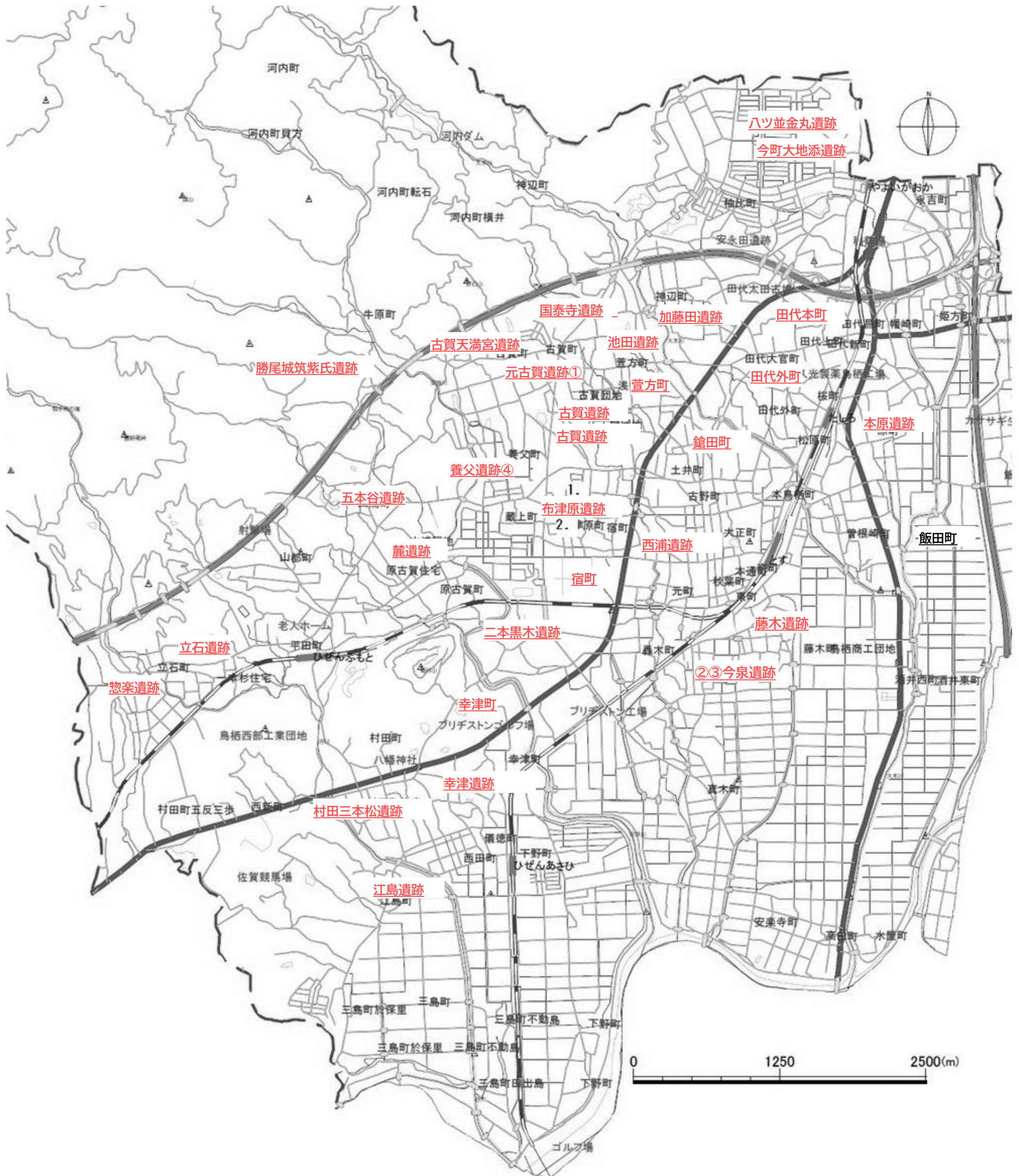


全景東から

令和7年度 確認調査により遺構・遺物を検出した地点一覧

	遺 跡 名	所 在 地	原 因 者	開 発 目 的	開 発 面 積 (㎡)	調 査 面 積 (㎡)	対 応	実 施 日	結 果	備 考
1	元古賀遺跡	古賀町339-13,339-14	サンデイズ(株)	福祉施設	533.09	34	本調査	6月13日	住居跡	
2	今泉遺跡	今泉町2563-15	個人	有無の照会	200.06	10	試掘調査	9月8日	小穴	遺構に影響を及ぼさないため、慎重工事
3	今泉遺跡	今泉町2564-2	一建設(株)	建売住宅	325.35	16	確認調査	11月10日	溝、土壙	遺構に影響を及ぼさないため、慎重工事
4	養父遺跡	養父町138	個人	店舗倉庫	499.92	26	確認調査	2月5日	小穴	遺構に影響を及ぼさないため、慎重工事

令和7年度市内遺跡確認調査地点



2 令和8年度事業計画について

(1)調査

- ①市内各地に分布している埋蔵文化財について、開発に際し事前の確認・試掘調査を実施して開発との調整を図り、その保護に努める。
- ②令和5～7年に実施した立石開拓古墳群発掘調査の整理作業を行い、報告書を作成する。
- ③文化資源充実事業について、調査や資料の収集を行う。

(2)保護・管理

- ①文化財の保存管理について、国・県・市指定の史跡・民俗芸能等に対し、所有者や地元団体に委託あるいは補助金の交付を行うとともに、必要に応じて助言を行い、これらの保存に努める。
- ②史跡等の保安全管理について、下草刈りや雑木の伐採、案内板・説明板の点検等を適宜行い、見学者の利便を図る。

(3)公開・活用

- ①鳥栖歴史文化交流展示室の利用促進のため、サンメッセ1階ホールにて企画展を開催し、情報発信を行う。
- ②鳥栖市立図書館において勝尾城筑紫氏遺跡の常設展示を行う。
- ③市民を対象にした「鳥栖のまちづくりと歴史・文化講座」「郷土資料講座」を開講する。
歴史・文化講座は「鳥栖の集落と交通」をテーマに全7回の座学と現地見学を行う。郷土資料講座は市内の古文書を教材として、第2・第4土曜日に初心者を対象とした古文書講座を行う。
- ④歴史と文化財を活用したまちづくりを目指して、市民と協働した「ふるさと元気塾」を開講し、ボランティアガイド育成に努める。
- ⑤田代太田古墳国史跡指定100周年記念講演会を、12月13日（日）にサンメッセ鳥栖で開催する。講師は、河野一隆氏（東京国立博物館学芸研究部長）に依頼する。
- ⑥遺跡見学会を春（4月19日雨天中止）と秋（11月下旬）に開催する。
- ⑦葛籠城跡で、市民活動団体の九千部クラブと協働で「山城の森林づくり体験」（孟宗竹の伐採・竹細工づくり等）を2回実施する。

(4)勝尾城筑紫氏遺跡

- ①令和7年度に改訂した整備基本計画に基づき、葛籠城跡地区を対象とする整備基本設計を作成する。
- ②筑紫氏館跡地区内の溪流周辺で、豪雨による地盤浸食を防ぐ排水対策の応急措置を行い、史跡の保護を図る。

3 新指定文化財候補について

(1) 鳥栖市に所在する肥前狛犬の概要

- ①名 称 轟木日子神社の肥前狛犬
- ②所 在 地 鳥栖市轟木町 1475
- ③所 有 轟木町区
- ④時 代 1705 年（「宝永二（？）年」銘あり・1704～1711）
- ⑤概 要

（寸法）阿）高さ 52.1 cm、長さ 54.7 cm、幅 26.5 cm

吽）高さ 47.7 cm、長さ 57.9 cm、幅 22.7 cm

（石材）安山岩

（形状）阿像頭部の形状は、正面から見ると四角形である。クローバー型に広がる鼻とアーモンド型の半陽刻の目で、二重に縁取られているが、さほど強調されていない。口は大きく開けず全面に歯が見られ、上下の歯の間に、舌が表現される。口髭が表現されており、鬣の表現は見られない。左側頭部が一部欠損している。体部は丸みを持ち、前脚は胸からまっすぐ伸びている。前脚部半ばに、僅かに節が見られる。後脚は伸ばしたような表現である。尾はまっすぐ上に伸びる。

耳の裏と腹部、尾の付近に朱色の絵具のようなものが、数本、下方に向かって付着している。どのような理由でつけられたものかは不明である。

右腹部に「奉寄進□□□」と「宝永二（？）年」銘があるがはっきりしない。

吽像頭部の形状は、逆三角形で狐顔である。クローバー型に広がる鼻とアーモンド型の半陽刻の目で二重に縁取られているが、さほど強調されていない。鬣の表現は見られず、口髭の表現が薄く残る。右耳が欠損する。

体部は丸みを持ち、前脚は胸からまっすぐ伸びる。脚部と胸部の境目に肉感があり、写実的である。阿像同様、前脚部半ばに、僅かに節が見られ、後脚は伸ばしたような表現である。尾はまっすぐ上に伸びる。左腹部に「裏木村 香月卯右衛門 寶永□年 七月吉日」とある。

両像とも、アーモンド型の目やクローバー型に広がりを持つ鼻、前脚をまっすぐ伸ばし、背中に丸みを持つ体部の形状などは肥前狛犬の特徴を表している。

（設置場所）現在は、阿像と吽像が対となって拝殿内に設置されている。平成 19 年頃までは、屋外にあり、幣殿脇に六角形の台座に乗せて設置されていた。両像とも、脚下部の退色があまり見られないことから、雨風が当たらないような状況であったと推測され、幣殿脇に設置する以前は、地面に直接置かれていた可能性がある。

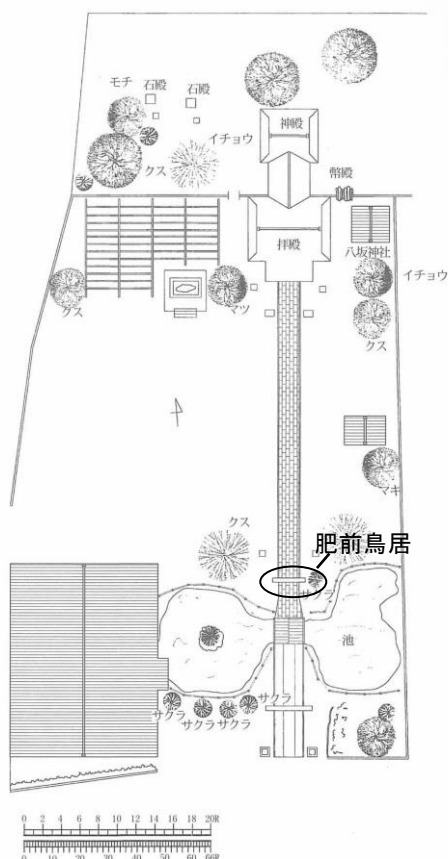
⑥指定候補に挙げた理由

佐賀藩領東端の宿場町に所在する日子神社に佐賀藩領を中心に分布する特有な形

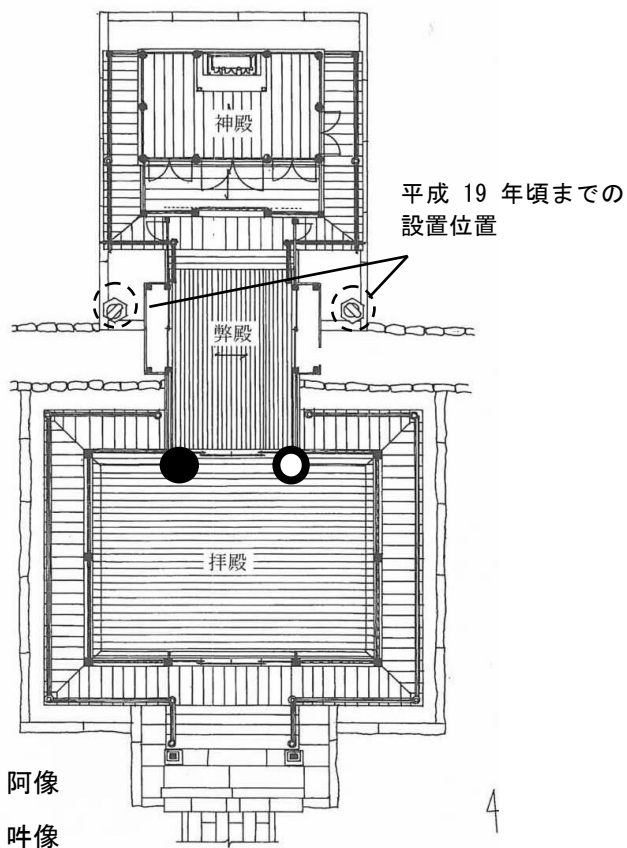
状の狛犬が奉納されていること、奉納年及び寄進者銘があることから、佐賀藩東端の地であった轟木町の歴史と文化を明らかにする貴重な資料である。

⑦その他

狛犬が所在する日子神社は、慶長2年、鍋島直茂が彦山社を御茶屋に勧請したものである。その後、現社地の西隣地を経て、現社地に遷座している。御茶屋から出た時期は不明であるが、現社地には、肥前狛犬と同様、佐賀藩領を中心として分布する肥前鳥居が所在している。柱には「元禄十三庚辰天八月吉日」「轟木氏子中」の銘がある。



轟木日子神社境内配置図

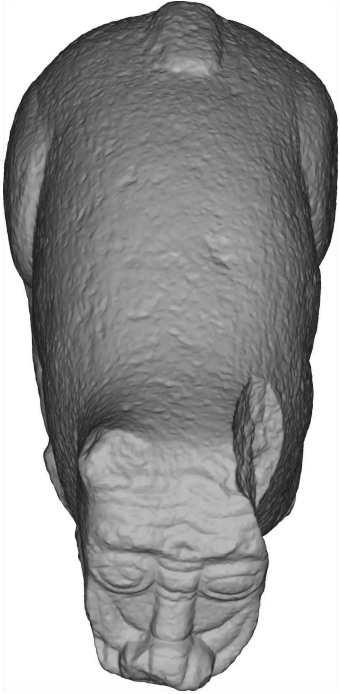


神殿・幣殿・拝殿平面図



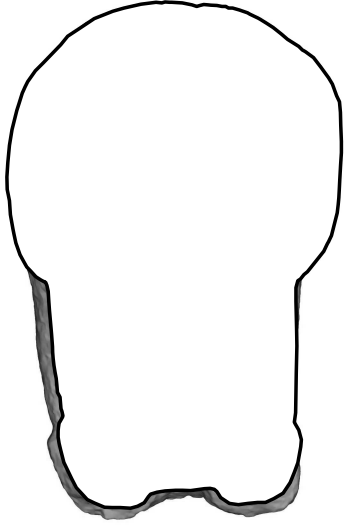
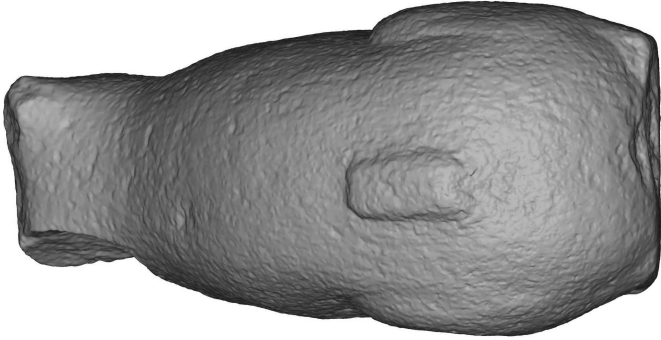
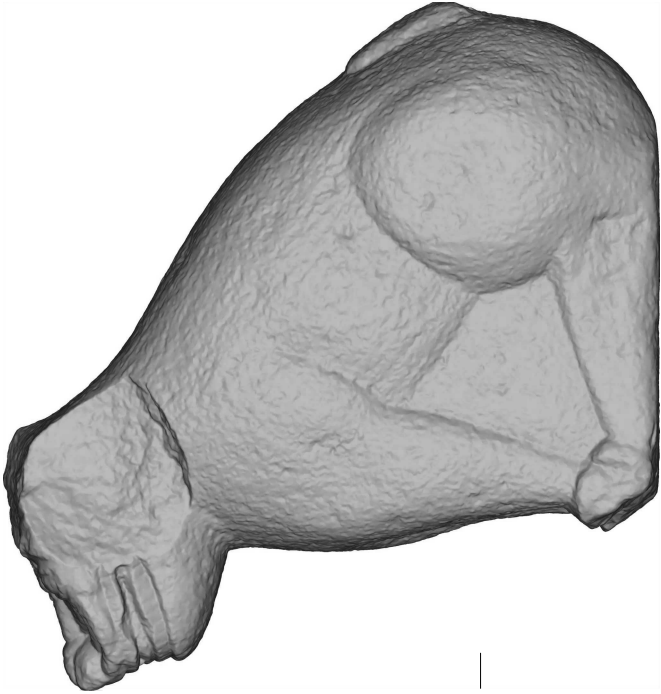
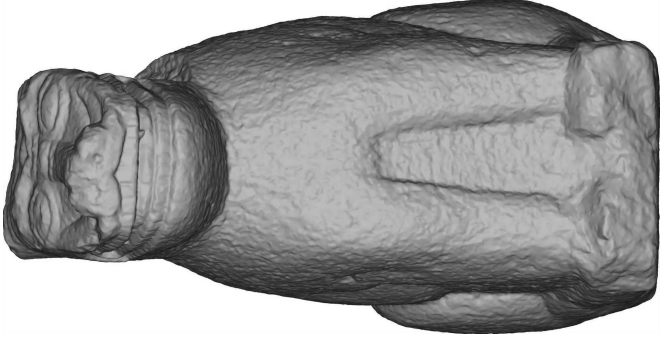
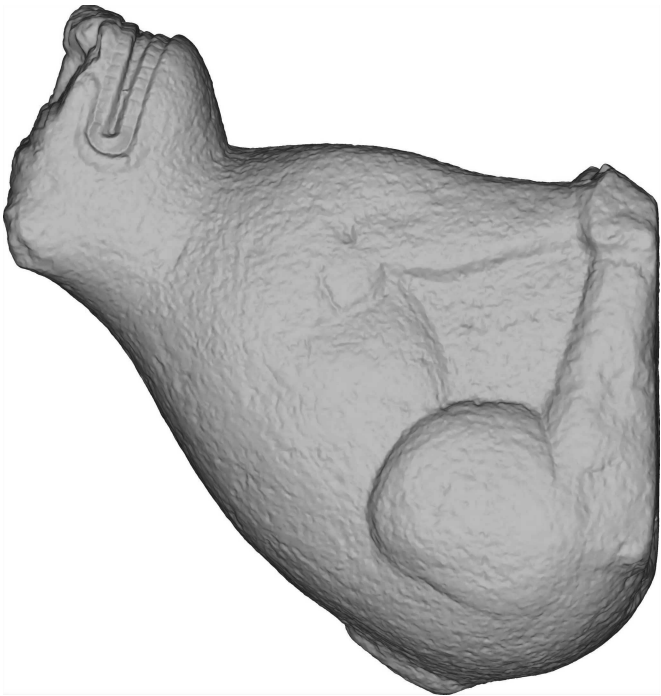
阿像

吡像



265mm

547mm



0 30cm

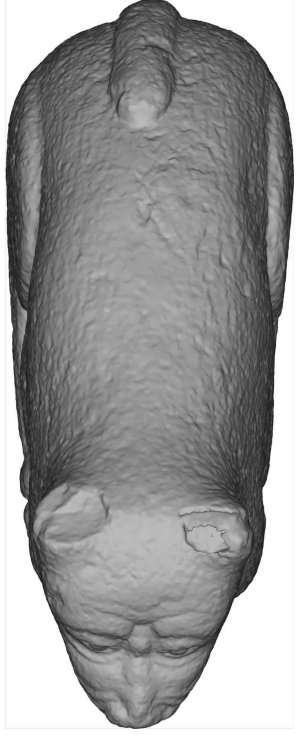
鳥栖市 轟木日子神社 肥前狛犬 阿像 (S=1/6)

撮影計測原図：肥前狛犬を学ぶ会 久保伸洋

撮影OLYMPUS OM-D E-M10 Mark II レンズ14mm

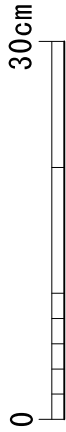
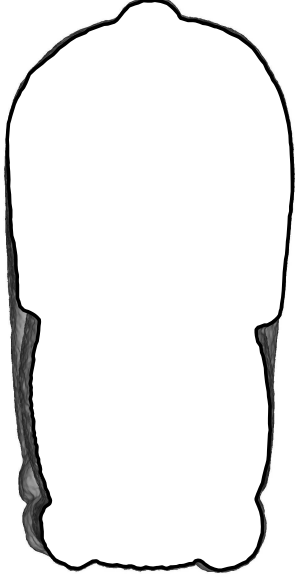
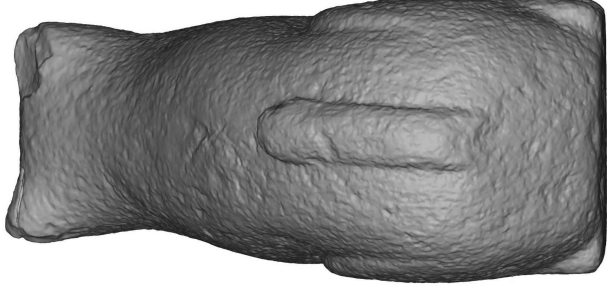
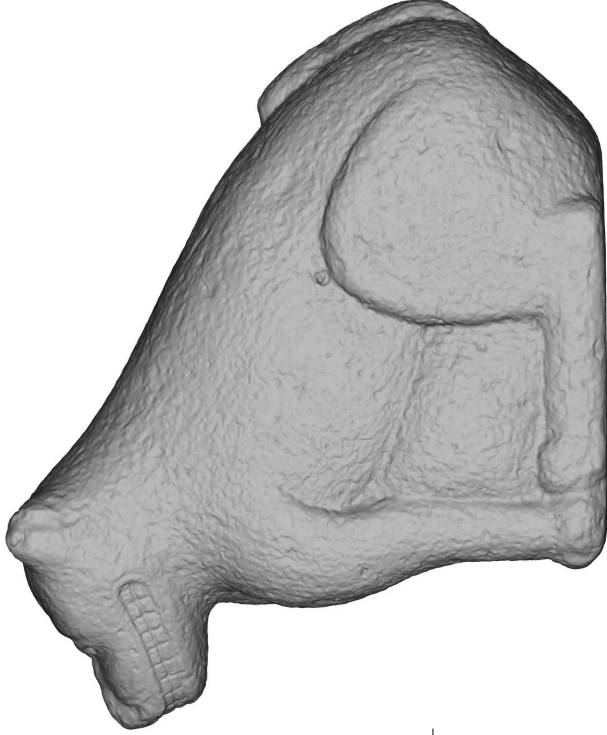
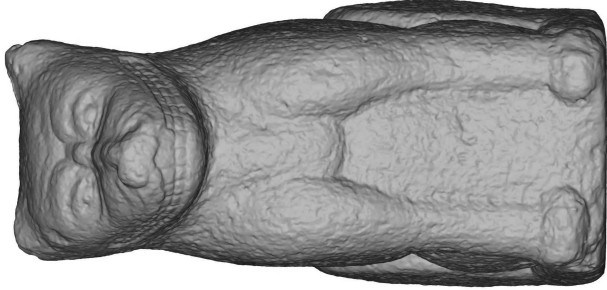
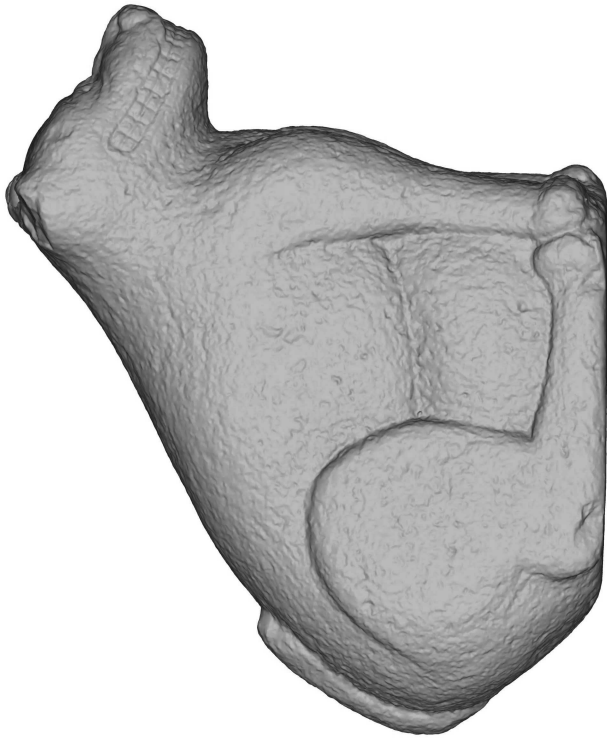
解析Metashape2.22Std、点群編集CloudCompare2.14

製図編集Jw_cad 10.04、写図Inkscape1.4



227mm

579mm



鳥栖市 轟木日子神社 肥前狛犬 吽像 (S=1/6)

撮影計測原図：肥前狛犬を学ぶ会 久保伸洋

撮影OLYMPUS OM-D E-M10 Mark II レンズ14mm

解析Metashape2.22Std、点群編集CloudCompare2.14

製図編集Jw_cad 10.04、写図Inkscape1.4

- ①名 称 下野老松神社の肥前狛犬
 ②所 在 地 鳥栖市下野町 2587
 ③所 有 下野町区
 ④時 代 1691 年（「元禄四年」銘あり）
 ⑤概 要

（寸法）阿）高さ 43.7 cm、長さ 43.0 cm、幅 27.2 cm

吽）高さ 46.5 cm、長さ 42.6 cm、幅 30.0 cm

（石材）安山岩

（形状）阿像の顔は正面を向き、クローバー型に広がる鼻とアーモンド型の半陽刻の目である。口は大きく開けず、歯が線刻で表現される。鬣と跳毛は巻き毛で、耳は垂れている。体部は、脚が浮彫で、前脚は胸からまっすぐ伸び、後脚は伸ばしたような表現である。尾の先は三又に分かれる。右前脚部に「元禄四」銘が確認できる。

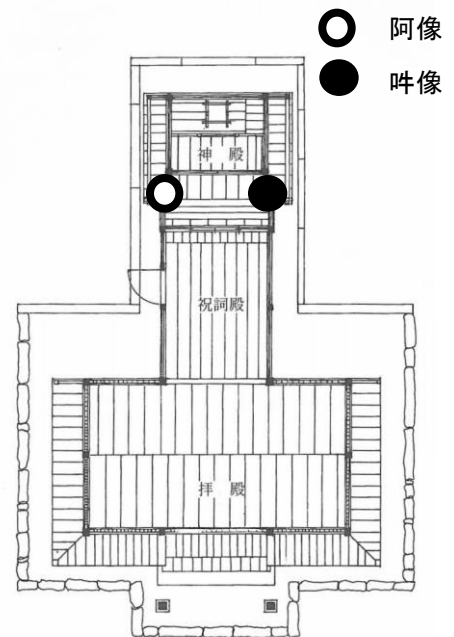
吽像の顔は正面よりやや内に向き、阿像と同様クローバー型に広がる鼻とアーモンド型の半陽刻の目である。口元は閉じた状態である。鬣と跳毛は巻き毛で、耳は垂れている。体部は、脚が浮彫で、前脚は胸からまっすぐ伸び、後脚は伸ばしたような表現である。尾の先は三又に分かれる。左前脚部に「元禄四」銘が確認できる。

共通して、直線的な構成はなく、写実的で全体に丸みを持つ。眉の盛り上がりや頬、胸部、前後脚に肉感がある。

鬣や跳毛における巻き毛と、尾の表現、阿像のみがやや内側を向くことは、佐賀市八坂神社の肥前狛犬とよく似ている。

両像とも、アーモンド型の目や広がりを持つ鼻、前脚をまっすぐ伸ばし、背中に丸みのある体部の形状などは肥前狛犬の特徴を表している。紀年銘のある肥前狛犬の中では、比較的新しいもので、写実的な表現と巻き毛の表現は、肥前狛犬のバリエーションの 1 つと考えられる。

（設置場所）阿吽像が対となって神殿入口の回廊に設置されているが、原位置は明らかではない。また、現在は、阿吽像の配置が他の狛犬とは異なる。



神殿・幣殿・拝殿平面図

⑥指定候補に挙げた理由

「元禄四」銘のある本狛犬は、唐獅子型を含め、鳥栖市内で最も古い狛犬であると言える。佐賀藩領を中心に分布する特有な形状の狛犬が所在することは、当該地の歴史性を知る上で、貴重である。

⑦その他

下野老松神社には、元禄 4 年銘の奉納物として、石殿（天神宮）が 2 基及び明神鳥居 1 基が所在している。

『田代代官所日記』には、水入村（赤川・水屋・高田・安楽寺・酒井・藤木・今泉・

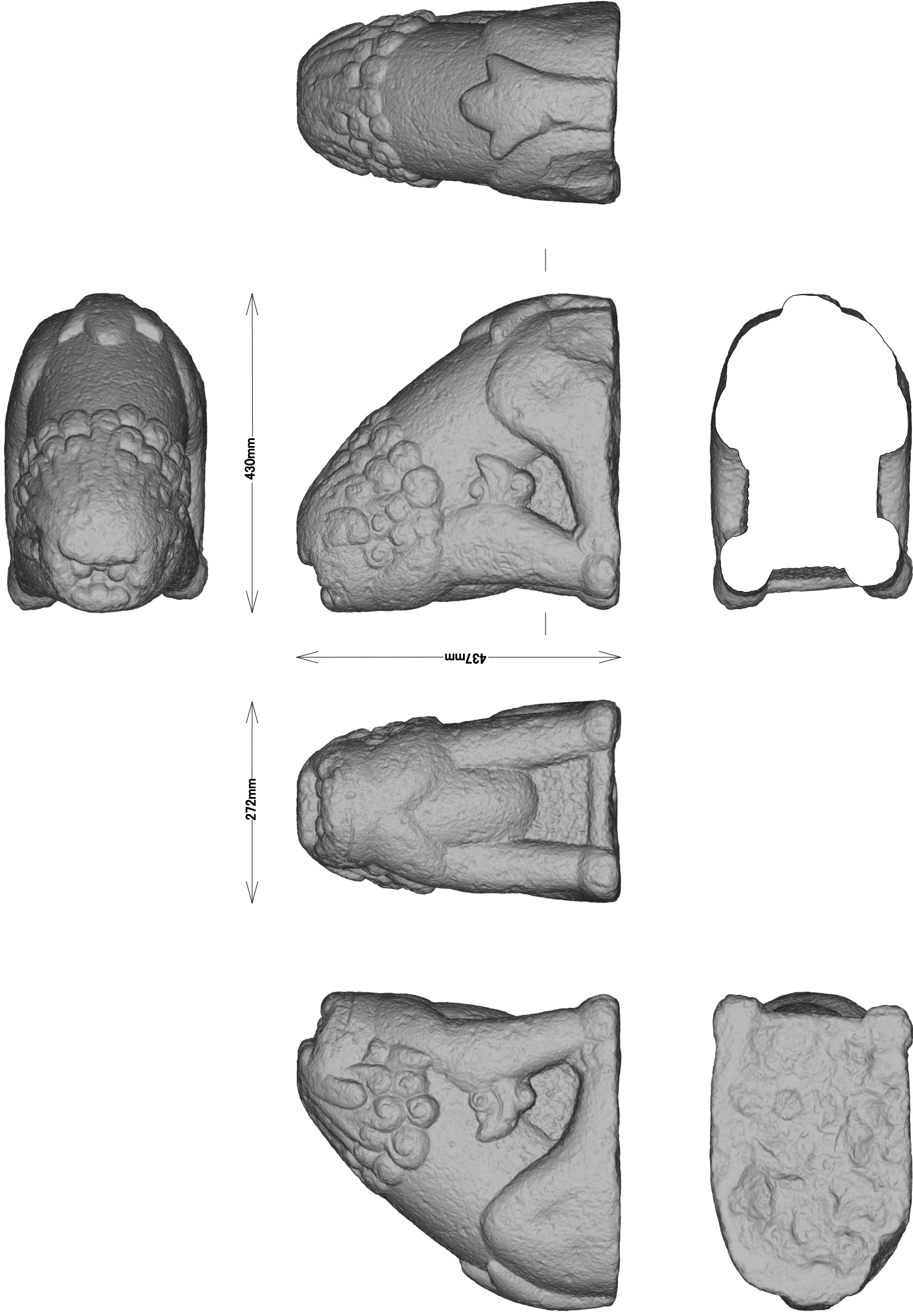
真木) で、元禄2年にあった水害の記録がある。下野町については、記録は無いものの、近隣地区での状況と同様と考えられることから、元禄4年に厄除けと復興を祈願したことが推測される。



阿像



吽像



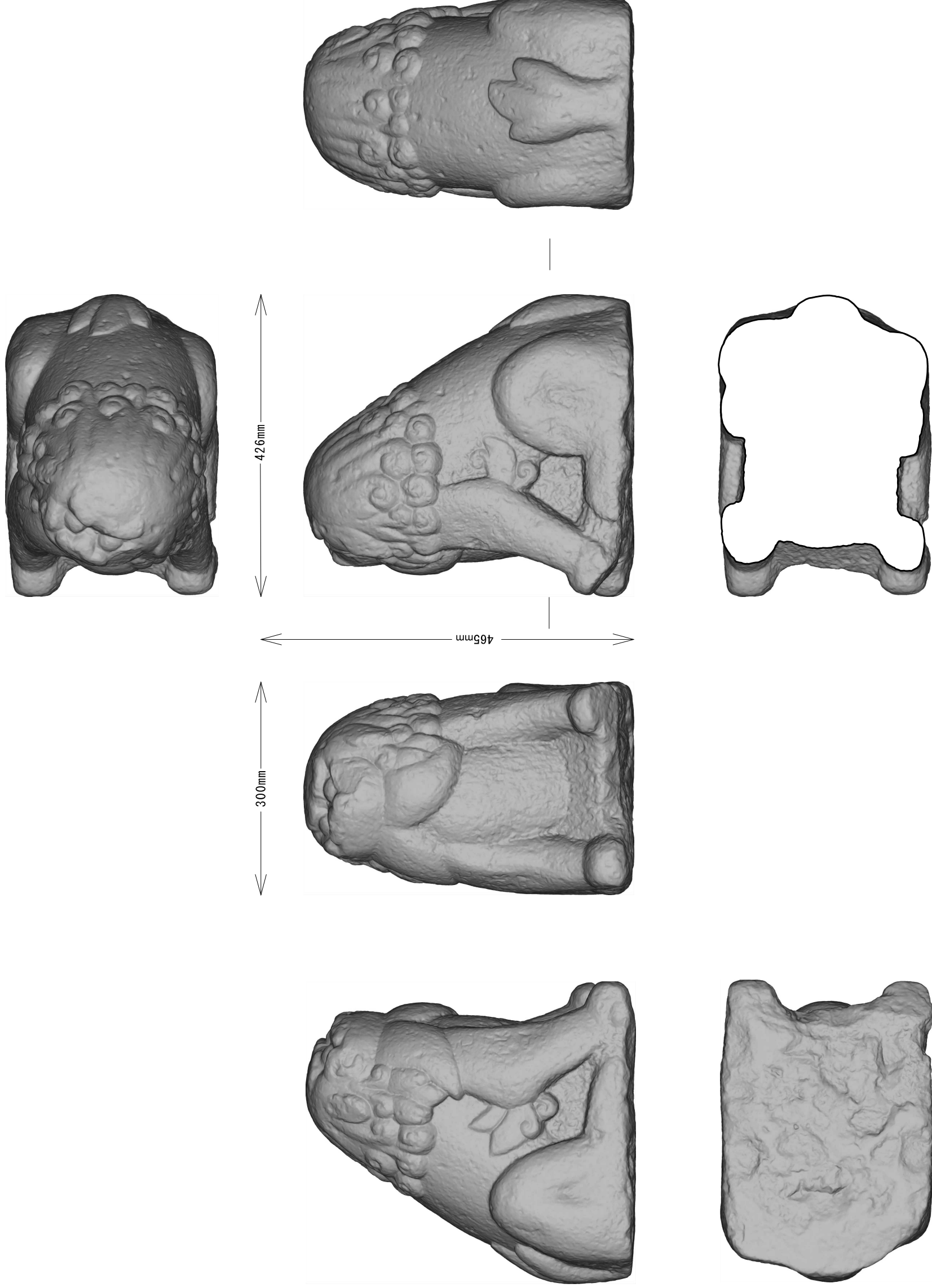
鳥栖市 下野老松宮 肥前狛犬 阿像 (S=1/6)

撮影計測原図：肥前狛犬を学ぶ会 久保伸洋

撮影OLYMPUS OM-D E-M10 Mark II レンズ14mm

解析Metashape2.22Std、点群編集CloudCompare2.14

製図編集Jw_cad 10.04、写図Inkscape1.4



鳥栖市 下野老松宮 肥前狛犬 叫像 (S=1/6)

撮影計測原図：肥前狛犬を学ぶ会 久保伸洋

撮影OLYMPUS OM-D E-M10 Mark II レンズ14mm

解析Metashape2.22Std、点群編集CloudCompare2.14

製図編集Jw_cad 10.04、写図Inkscape1.4

①名 称 鳥栖八坂神社の肥前狛犬

②所 在 地 鳥栖市本町 1 丁目 867

③所 有 鳥栖八坂神社

④時 代 不明

⑤概 要

(寸法) 阿) 高さ 38.3 cm、長さ 40.3 cm、幅 21.0 cm

吽) 高さ 33.5 cm、長さ 40.9 cm、幅 24.2 cm

(石材) 安山岩

(形状) 阿像はクローバー型に広がる鼻とアーモンド型の半陽刻の目で二重に縁取られており、前方を正視している。口は大きく開いており、その中に舌や歯が見られ、歯列からはずれた場所に犬歯が表現される。頭頂には角のような隆起があり、その両脇に小ぶりの立耳が見られる。体部は丸みを持ち、前脚と胸部の境目と腹部には段がついている。鬣を線刻で表し、背中には背稜が浮き彫りされている。尾はまっすぐ上に伸びる。前後の脚は横から見るとアーチ状に彫り抜いて作られている。前脚は脚先の表現まで見られるが、後脚の表現は不明瞭である。

吽像はクローバー型に広がる鼻とアーモンド型の半陽刻の目で二重に縁取られており、前方を正視している。頭頂には小ぶりの立耳が見られる。体部は丸みを持ち、前脚と胸部の境目と腹部には段がついている。鬣を線刻で表し、背中には背稜が浮彫りされている。尾は不明瞭である。前後の脚は彫り抜いて作られている。

紀年銘が確認できないため、製作年代ははっきりしない。顔の表現は肥前狛犬の様相を呈するが、体部の形状は他であり見られない。

(設置場所) 現在は、社殿内で保管されている。

前脚は脚先の表現まで見られるが、後脚の表現は粗雑であることから、当初は、正面を向いた状態で設置していたと考えられる。

⑥指定候補への課題

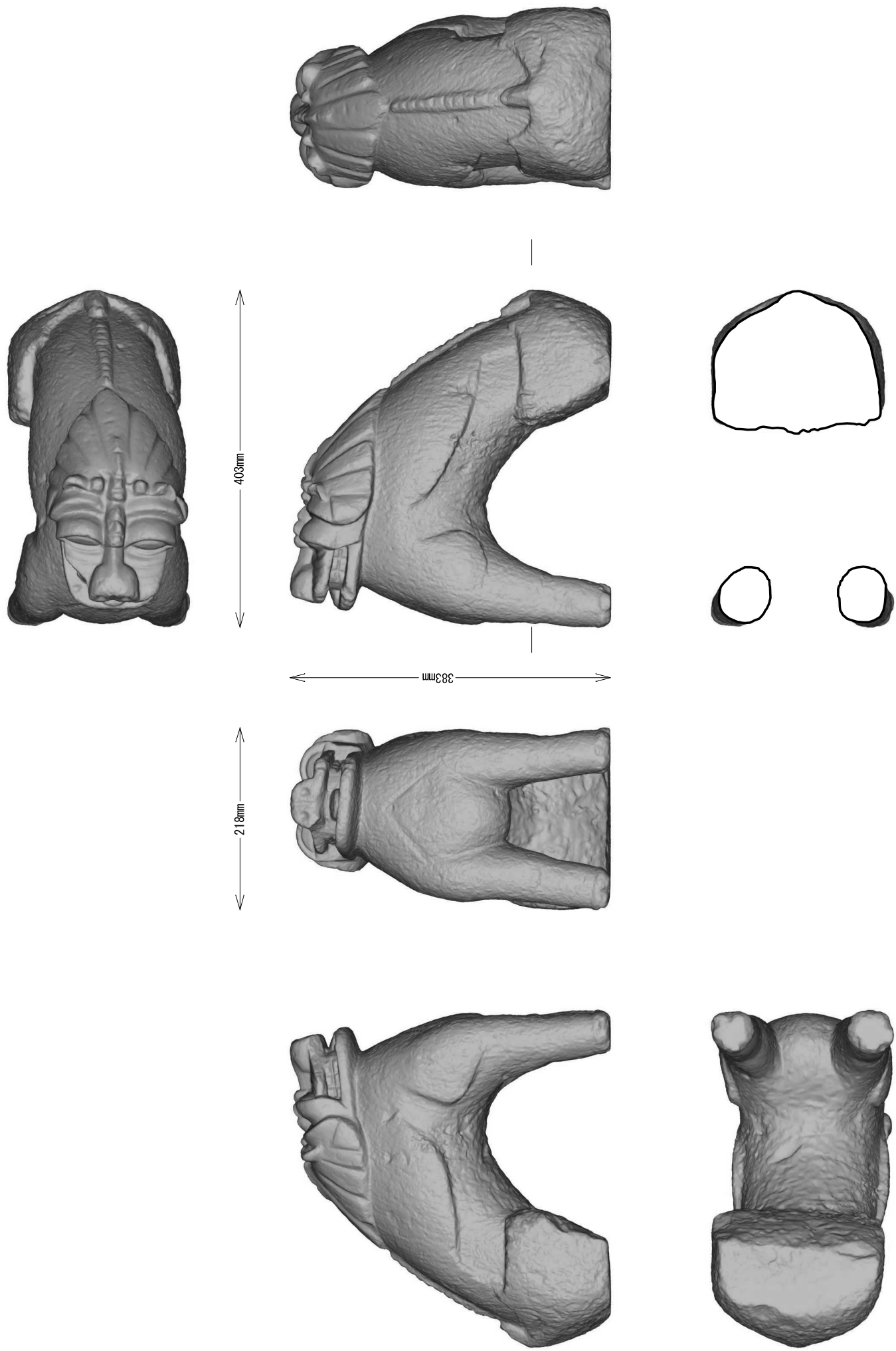
当該狛犬は、製作年代が不明であり、頭部の表現は肥前狛犬の特徴を表しているものの、市内に所在する他の肥前狛犬と比較して、体部の形状は異質なものである。また、狛犬が所在する八坂神社は対馬藩内にあることから、肥前狛犬としての位置付けが難しい資料である。今後、類例及び搬入ルート等について、詳細な調査が必要である。



阿像

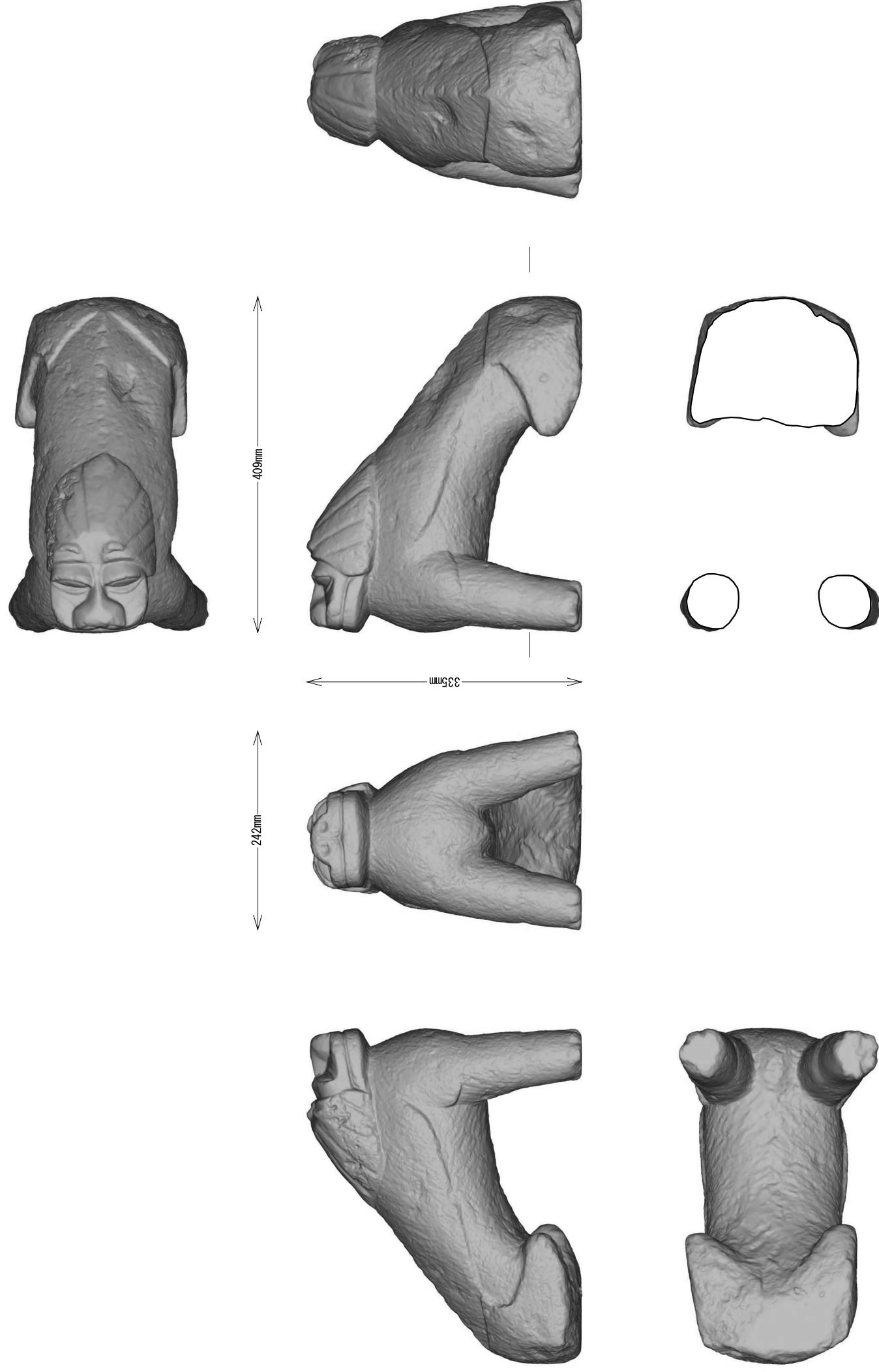


吽像



鳥栖市 鳥栖八坂神社 肥前狛犬 阿像 (S=1/6)

撮影計測原図：肥前狛犬を学ぶ会 久保伸洋
 撮影OLYMPUS OM-D E-M10 Mark II レンズ14mm
 解析Metashape2.22Std、点群編集CloudCompare2.14
 製図編集Jw_cad 10.04、写図Inkscape1.4



鳥栖市 鳥栖八坂神社 肥前狛犬 呌像 (S=1/6)

撮影計測原図：肥前狛犬を学ぶ会 久保伸洋
 撮影OLYMPUS OM-D E-M10 Mark II レンズ14mm
 解析Metashape2.22Std、点群編集CloudCompare2.14
 製図編集Jw_cad 10.04、写図Inkscape1.4